

障害のある学生への 高等教育における合理的配慮の妥当性に関する研究

受託機関

東京大学先端科学技術研究センター

人間支援工学分野

目次

本研究の目的	- 1 -
障害学生へのインタビュー調査	- 2 -
目的	- 2 -
方法	- 2 -
協力者	
実施場所	
手続き	
結果	- 4 -
特別措置申請の経緯：事例の流れ	
考察	- 23 -
特別措置申請を経験した本人の申請過程における問題点	- 23 -
1. 「障害の説明および理解の難しさ，交渉作業にかかる学生本人の負担」	
2. 「特別措置申請を行うこと自体についての本人の心理的負担」	
3. 「障害者の受験＝AO入試や障害者特別選抜という図式」	
特別措置の内容に関する問題点	- 24 -
1. 「肢体不自由」の事例から	
筆記困難に対するパソコン利用や代筆の適用範囲の狭さ	
時間延長措置から生じる学生への負担	
2. 「高次脳機能障害」の事例から	
障害への措置の不在	
3. 「アスペルガー症候群」の事例から	
特別措置の効果的な実施における不備	
4. 「聴覚障害」の事例から	
特別措置申請を行うかどうかの判断の難しさ	
総合考察	- 27 -
1. 「特別措置申請とその結果を透明化するため情報公開を進める」	
2. 「障害を合理的に説明する方法についてのリテラシー教育を，障害学生や教師，保護者に行う」	
3. 「社会的に配慮のされていない障害に対応する」	
4. 「特別措置申請に関わる活動を一元化するセンターを実現する」	
おわりに	- 31 -
引用文献	- 33 -
研究体制	- 34 -